

琳派の継承には
「本」が不可欠だった!?

本の万華鏡「本でたどる琳派の周辺」を公開しました

国立国会図書館では、様々なテーマについて当館の蔵書を使って紹介するミニ電子展示「本の万華鏡」をホームページで公開しています。本日公開の第20回では「本でたどる琳派の周辺」と題し、図書館ならではの視点で「琳派」を取り上げます。

「琳派」は本阿弥光悦にはじまり俵屋宗達・尾形光琳・酒井抱一らによって築き上げられてきた美術の流れを表す言葉です。今年は、光悦が徳川家康から京都・鷹ヶ峰の地を拝領して400年の節目の年に当たります。

「本の万華鏡」では江戸から現代、あるいは日本から海外へと、本がつかないでいった琳派の流れを、「琳派が生み、本が伝えたかたち」「琳派が『琳派』になるまで」「海を越えた琳派」という図書館ならではの視点からご紹介します。

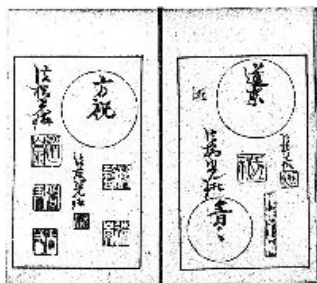
●掲載資料の一部（下の URL から詳細な画像、資料の中身をご覧くださいませ）



中村芳中の版本より、奔放な枝ぶりの白梅。
(出典:中村芳中画『光琳畫譜』<請求記号:午-24>)



「近代の琳派」と呼ばれる神坂雪佳が、うどんを用いてアール・ヌーヴォーを揶揄した図案。(出典:神坂雪佳『滑稽図案』<請求記号: 83-230>)



抱一は『尾形流略印譜』を刊行し、宗達・光琳らの連なりを流派として設定した。
<請求記号: 15-156>



ユーモラスな人物画も実は琳派の特徴の一つ。芳中作の能に興じる武士。(出典:中村芳中画『光琳畫譜』<請求記号:午-24>)



本の万華鏡

<http://www.ndl.go.jp/kaleido/>

■ 報道機関の方のお問い合わせ先

国立国会図書館 総務部 総務課 広報係 03-3506-5103 (直通)